人は年を取る

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
人は年を取る

【Ｎコード】
Ｎ２１５５Ｋ

【作者名】
夕焼け

【あらすじ】
でも、ふとある時気付く。
その高みには誰もいない。る

無知だった頃は、誰の言葉も真剣に受け止める事が出来た。
どんな人の発するどんな言葉であっても、それは全て僕にとって新鮮だったし、そのどれもに学ぶ事があった。

年を重ねて、経験を重ねて、知識を蓄えて、自分で考える事をして、ある程度それを体言できるくらいになると、段々人の意見を真っ直ぐ受け止めるって事が出来なくなっていった。

誰の発するどの言葉も、既に聞いたことのある事柄を、ちょっと違う言い回しで言ってるだけに聴こえた。
どれもこれもが退屈で無為で浅はかな言葉に見えた。
そういう言葉を発する人たちに敬意を払うことが出来なくなった。

相手の言い分より、自分の考えの方が正しく思えた。
だって自分はこれだけ多くの経験を積んで、これだけ思慮して答えを導き出したんだ、それがこんな奴らの考えに劣るはずが無いって。

自負だったり、競争心だったり、闘争心だったり、自尊心だったり、虚栄心だったり、あるいはそれでもなお迷う心だったり、自分を疑う心だったりが、人の意見に耳を傾ける事を頑なに拒ませた。

それでも傲慢なくらいに自信を帯びて暴力的な僕の言葉は時として人や物事を大きく動かしたし、僕の言葉によって心情や状況を動かされた人たちは僕に感謝したり、僕に敬意を払ったりした。
無論それ以上に憎まれたり蔑まれたりする事の方が多かったけれど。
感謝されたり崇められる事でどんどん増長したし、蔑まれたり罵ら

れたりする事でどんどん傲慢さを増して頑固になった。
より一層人の言葉に耳を傾けられない人間になっていった。

自分が遥か高みにいる気分になれたし、自分のする事、考える事、何もかもが高尚な事であるように思えた。

でも、ふとある時気付く。
その高みには誰もいない。

知性と気高さを持った先人達はみな、僕のように孤独だっただろうか。
確かに死ぬまで孤高であった人もいたけど、慕われ、愛され、語らう仲間に囲まれてる偉人もたくさんいた。

どっちが本当の高みなのか。

あるいはどっちも同じように、それなりの高度を持った場所なのかもしれない。
ただ、ベクトルが違うだけで。

無論、僕は自分の現在いる孤高を肯定して、それ以外の高みを否定した。
そうしないのは、自分の積み上げてきた人生全てを否定することのように思えたからだ。

でもその生き方はだんだんと息苦しくなる。
自分を肯定して、それ以外を否定しなければ維持できないような高みに固執し続ける事は、とても窮屈なことなのだ。

ここがターニングポイントだ。

それでもなお、高みに固執し、自分以外の誰も喜ばない勝利を重ね続ける生き方を選ぶか、折れる事を選ぶか。

もうこれはどっちが正しいも間違いもないと思う。
多くの人は「驕りを捨てて、人を受け入れて、人を愛して生きる生き方」をより尊ぶし、その生き方としての高みを望むと思う。
でもそれはあくまでも教育過程で刷り込まれた大衆論的正しさであって、万人に当てはまる絶対の正しさではない。

孤高を貫く生き方には、孤高を生きた人間にしか分からない尊さがある。
そういう人が生み出した美しいものや尊いものも、歴史上沢山残されてる。

僕は孤高を目指す事に、単純に疲れた。
誰かが笑いかけてくれると、すごく単純にそれを嬉しいと感じてしまう。
笑いかけてくれる人がいるのに、それでもなお孤高を目指す理由が自分の中に見当たらない。
そもそも、孤高を気取ったところで、大した高さに至れない事を、心の片隅で悟ってた。
だから自分自身に迷ったり、自分自身を疑ったりしたのだ。
だから頑なに自分以外を拒まねばならなかったのだ。

そもそも、孤高を望んだのは、考えるより先に孤独だったからだ。

いい加減いい年なんだし、そろそろまた人の言葉に耳を傾ける事をしようと思う。
誇れるほど高みにいない自分に気付いちゃえば、案外すんなり人の言葉は僕の耳に入ってくる。

必要以上に丸く優しくなろうとは思わない。
ただ、必要以上に頑固になる必要もない。

人や物事が僕にもたらす変化をただありのままに感じて、ゆっくりやってこうと思う。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2155k/

人は年を取る

2010年10月12日07時08分発行